

文部科学省が平成 28 年に教育機関に掲示した三つのポリシー『「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー）』は大学をはじめとする高等教育機関における教育の質保証や向上を目的とした基本方針であり、それぞれのポリシーは教育の段階に応じた学びの方向性や評価方法を明確にするものです。また、教育機関が目指すべき目標を明確にし、学生が学ぶ過程や最終的な成果を確保するためのガイドラインとして機能しています。

宮城高等歯科衛生士学院(1963 年設立)は、学術団体である宮城県歯科医師会(1907 年設立、宮城県で開業している歯科医師会員約 1100 名)で組織された公益性の高い教育機関です。

歯科衛生士養成機関が歯科医師会会立の学校であるという特性は、単なる個々の学生の育成を超えて、地域社会全体への医療貢献を強化する役割を担っています。本学院におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの適用は、歯科医師会との連携を通じて、より広範な社会的ニーズに対応できる人材を育成するために極めて重要です。歯科医師会と連携することで、地域医療に密接した実践的な教育が提供され、学生は卒業後に地域住民に対する健康支援の最前線で活動できる人材となります。また、歯科医師会が持つネットワークを活かし、地域全体での予防歯科活動や口腔保健教育の推進に力を注ぎ、その結果、社会的なニーズに応じた医療提供が可能となります。

歯科医師会会立校としての三つのポリシー概要

1. ディプロマ・ポリシーにおける公益性の反映

本学院の卒業生が地域住民の健康を支える歯科衛生士として、特に健康増進活動や予防歯科に貢献できることが重要視されます。したがって、ディプロマ・ポリシーでは技術的な修得だけでなく、地域社会に対する責任感や貢献意識の醸成が必須です。歯科医師会が持つ広範なネットワークを活用し、卒業生が地域の口腔保健活動や健康教育プログラムに積極的に参加することが期待されます。学生は卒業後、歯科医師会と連携した公益性の高い活動に自然に関与することができ、社会全体の口腔健康の向上に貢献することができます。

2. カリキュラム・ポリシーにおける公益性の反映

本学院のカリキュラム・ポリシーは、地域社会に密接に結びついた実習や教育プログラ

ムの充実が求められます。歯科医師会との協働により、実習先としての仙台歯科医師会在宅訪問・障害者・休日夜間歯科診療所をはじめ、会員の地域歯科診療所、高齢者施設、保育園や小学校等における多様な保健指導の実習を通して、学生は実際の地域医療や公益活動の現場を肌で感じることができます。特に、高齢化社会における口腔健康管理や予防歯科活動の強化が重要であり、このような経験を通じて学生は、地域全体の健康支援の一環として自らの役割を理解し、将来の職業意識を深めることができます。

3. アドミッション・ポリシーにおける公益性の反映

本学院では、公益性に基づいた人材選抜が特に重要です。受験生入学受入方針においては、医療従事者としての倫理観や責任感、さらに地域社会に積極的に貢献したいという意識を持った学生を選抜することが求められます。歯科医師会の活動や地域医療に対する理解と共感を示す学生を入学試験や面接で重視することで、将来的に地域の医療・福祉に貢献できる人材を確保することができます。学生は、歯科医師会と連携した地域保健活動やボランティア活動に積極的に参加し、社会全体に影響を与える歯科衛生士の輩出が可能となります。

本学院の三つのポリシー

本学院は、「高度な専門能力の修得、自ら課題を見出す力、思いやりと社会性を重視」を教育目標にしています。

●三つのポリシー策定に当たっての骨格

- 1 学術団体である宮城県歯科医師会会立の教育機関の特性を活かし、実践的な知識の修得を目指しながら、キャリア形成のサポートとプロフェッショナリズムの向上に努める。
- 2 基本的な医学知識に基づく高い専門性を持って行動できる人材の育成を目指す。
- 3 プロフェッショナルとしての意識を持ち、生涯学習と自己啓発に取り組む姿勢を養う。
- 4 包括的なケアを提供するため、歯科衛生ケアプロセスに基づくクリティカルシンキングを養う講座を提供する。
- 5 対人サービスに必要な社会的スキルとコミュニケーション能力を高める。
- 6 卒業論文（研究論文）作成を通じて、論理的思考力を育てることを目指す。
- 7 国際化を見据え、海外の歯科衛生士養成機関との交流を通じて、異文化理解と国際

的視野を広げることを目的とする。

1. ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

定義：

本学院の教育目標に基づき、学生が卒業時に到達すべき学問的および技術的な水準を定義します。単なる知識や技術の修得に留まらず、患者に対する「倫理観」や「社会的責任感」の育成を重視。

本学院に3年以上在学し、以下の要件を満たした者に「専門士」を授与します。

1. 基礎的な歯科知識および技術を修得し、患者の健康管理に貢献できる能力を持つ。
2. 歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助の実践力を有し、チーム医療の一員としての役割を果たせる。
3. 高い倫理観を持ち、地域社会や高齢化社会に対応できる医療提供者としての責任を理解し、専門性を発揮できる。
4. 専門職としての自覚を持ち、対象者の心情を理解し行動できる感性を持っている。
5. 歯科衛生の理論を追求し、主体的に問題を解決する能力を持っている。
6. 国際貢献に対する高い関心を持ち、国際交流を実践するための基礎力を備えている。
7. 生涯にわたる自己研鑽に努め、専門職として能力向上を目指すことができる。

●カリキュラム編成に当たっての骨格

1. クリティカルシンキングとアクティブ・ラーニング、問題解決型学習（PBL）やシミュレーション学習を通じて、学生の思考力や判断力を養う。
2. 最新技術とデジタルツールの活用デジタル診断、AI、電子カルテを活用し、実践的なスキルを修得する。
3. キャリア形成支援とプロフェッショナルマインドの育成のため宮城県歯科医師会のネットワークを活用し、多様なキャリアオプションを提供する。
4. 口腔機能の健全な獲得とリハビリテーション、IPE（多職種連携教育）の理解を深める。
5. 持続可能な歯科医療と多文化・多様性に対応できる包括的な教育を提供し、全ての患者に公平で質の高いケアを提供する力を育成する。
6. 国家試験合格に向けた基礎教育の強化体系的な教育とフィードバックを通じて、国家試験に対応する能力を高める。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

定義：

教育課程が体系的かつ一貫性のあるものとして編成され、ディプロマ・ポリシーの達成をサポートしこれを実現するためのカリキュラム全体の設計や実施方法を改善することに重点を置きます。

1. 基礎分野科目：豊かな感性と教養を育み、思いやりの心やコミュニケーション能力を高め、医療人として必要な倫理観を養う。
2. 専門基礎分野科目：歯科保健医療の専門職に必要な基礎知識を学び、専門性を深めるための基盤を形成する。
3. 口腔保健学：歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助に必要な知識・技能・態度を培う。
4. 歯科衛生ケアプロセス：問題解決能力の育成、個別化ケアの提供、エビデンスに基づく実践、コミュニケーション能力の向上、継続的ケアの促進、医療面接スキル、臨床実践に必要な能力を養う。
5. 臨床歯科医学：高度化する歯科臨床に対応できる基礎的かつ専門的な知識を修得する。
6. 臨床・臨地実習：学んだ知識と技能を実際の臨床現場で実践し、コミュニケーション能力、医療人としての規範意識、協調性などを養う。
7. 研究活動：問題解決能力や科学的根拠に基づく論理的思考を醸成する。
8. 外国語科目：国際貢献に必要な基礎力を養う。

3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

定義：

本学院の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づいた教育内容を踏まえ、どのような学生を受け入れるかを定めた基本的な方針。入学を希望する学生に求める学習成果や能力を示すもので受験生には、目的や学院の特色に応じた能力や適性が求められ、それに基づく選抜方法や試験内容を設定する。これにより、受験生が学院の教育理念や特色に基づいて進路を選択できるようにする。

1. 歯科診療に興味があり、歯科衛生士を志す明確な動機と強い意欲を持っている。
2. 歯科保健医療を通じて、人々の生活の質向上に貢献したいという意欲を持っている。
3. 思いやりの心と優れたコミュニケーション能力を持っている。
4. 向上心、学習意欲を持ち、問題解決に主体的に取り組む姿勢がある。
5. 協調性と粘り強くやり遂げる姿勢を持っている。

■教職員の研修の活性化と教員業績評価での教育面の重視ならび自己点検・評価の実施

教育の質を向上させるためには、教員が文科省の三つのポリシーに基づき、学生に対して的確かつ効果的な指導を行うことが重要。ディプロマ・ポリシーに基づいて明確な目標を提示し、カリキュラム・ポリシーに沿った段階的なスキルの育成を行い、アドミッション・ポリシーに基づく個別対応とモチベーションの維持を図ることが質の高い教育を提供するための鍵となる。教員が三つのポリシーを深く理解し適切に学生指導を行うことで学生は高い能力を持つ専門職として成長し社会での成功が期待されます。

1. ディプロマ・ポリシーを踏まえた指導内容

このポリシーに基づき、教員は学生に対して明確な目標を持って指導することが求められる。本学院では、学生が専門的な知識とスキルを身に付け臨床現場で活用できるようにします。

2. カリキュラム・ポリシーを踏まえた指導内容

学生が段階的に知識や技術を修得できるようにカリキュラムを設計します。教員はカ

リキュラムに基づいた教育を提供し各段階で必要な指導を行いながら学生が最終的な学習成果に到達できるように支援します。

3. アドミッション・ポリシーを踏まえた指導内容

学生がプログラムを通じて成功するための適性を評価します。入学後、教員はこのポリシーに基づいて学生の個別の特性や背景を考慮し効果的な指導を行い、特に多様な背景を持つ学生が各自の強みを活かして成長できるような指導をします。